



七宝藍地花鳥図花瓶 七宝会社 明治22年(1889) 一对 七宝 各径45.0 高79.0



蒔絵の台に載せた姿

当初から〔千種の間〕を飾っていた装飾品のうち、今なお現存するものとして挙げられるのは、七宝の花瓶と花盛器である。明治宮殿の空間に合わせて、どちらも七宝作品としては巨大なものであるが、花盛器は正倉院風の古代文様を生かしたものの、花瓶は写実的な花鳥図をまとっている。花盛器は濤川惣助、花瓶は七宝会社が制作したものであるが、実際に制作を担当したとみられる七宝会社の東京工場は、この当時、濤川惣助が経営していた。なお、これらの花瓶は、装飾当時より蒔絵による美しい置台を伴っていた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

幻の室内装飾 ― 明治宮殿の再現を試みる

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 56

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十三年九月二十三日発行

© 2011 The Museum of the Imperial Collections